

岡山県立矢掛高等学校

井原の魅力発掘委員会

～大河から井原をメジャーに～

高校生ボランティア・アワード2022

【渋沢栄一と私の地元】

活動概要

日本資本主義の父と呼ばれ、2024年発行の新一万円札の肖像に選ばれた、渋沢栄一氏の人生の転機に関わったのが、私の地元、岡山県井原市である。井原市内で渋沢栄一ゆかりの地を巡り、一枚のパンフレットを作成した。地域を盛り上げる活動の一つになればいいと考え、そのパンフレットを地域の方々や井原市を訪れる観光客に向けて配布した。

渋沢栄一と井原市の関係

NHK大河ドラマ「青天を衝け」で渋沢栄一の波乱万丈な人生が放送された。その渋沢栄一は幕末に農民兵募集に訪れた井原市での成果が躍進につながり、また滞在中に親交を深め師事した漢学者・儒学者「阪谷朗廬」（さかたにろうろう）の存在がある。後に、阪谷朗廬の息子と渋沢栄一の娘が結婚という深いつながりとなっている。阪谷朗廬は興譲館初代館長として若者の指導にあたった。興譲館は現在、興譲館高校として存続する。渋沢栄一は阪谷朗廬と興譲館の講堂で会ったと言われるが、その講堂は現存している。

栄達のキッカケは井原市

“渋沢栄一”とわたしの地元

作成：岡山県立矢掛高等学校 三宅茉莉

2024年、新一万円札の肖像に選ばれた渋沢栄一。「日本資本主義の父」と言われ、NHK大河ドラマ「青天を衝け」で波乱万丈な人生が放送されています。その渋沢栄一の人生の転機に関わったのがわたしの地元、井原市です。

①桜溪塾

1851年に漢学者の阪谷朗廬が開いた。石碑の題字は栄一が書いた字が刻まれている。



②興譲館

1853年に郷校として開校。校門に掲げられた「興譲館」の扁額は渋沢栄一が揮毫したものである。創建当時の姿の講堂も渋沢栄一が当地を訪れ、阪谷朗廬と面会した場所とされている。



興譲館 講堂の動画



③一橋陣屋跡

1864年一橋家の家臣となり、農兵を集めるため、備中の国西原村を訪れた。興譲館の館長であった阪谷朗廬と親交を深め、農兵を集めることに成功し、慶喜から認められた。



④慈母君壽碑（妙善寺境内）

阪谷朗廬の妻・恭を讃える顕彰碑であり、石碑の題字を渋沢栄一が揮毫している。文章は阪谷朗廬の四男・芳郎の撰である。妙善寺は恭の実家である山成家の菩提寺。



妙善寺境内

⑤山成酒造

1804年創業以来、絶え間なく酒質の向上に努めてきた酒造。漢学者である阪谷朗廬や、文豪の谷崎潤一郎など多くの好酒家が愛飲した。



栄一が揮毫した山成家建物の名称「協和堂」

現社長、元代社長と

⑥坂田家の生家（阪谷朗廬ほか四先生の生家）

阪谷朗廬の生家。長屋門と言われ門の両側は部屋になっていて、使用人の方が住んでいた。



妙昭寺境内

⑦坂田家の菩提寺 妙昭寺

坂田家近くにあるお寺。阪谷朗廬の書をはじめ、坂田家ゆかりのものもたくさんある。

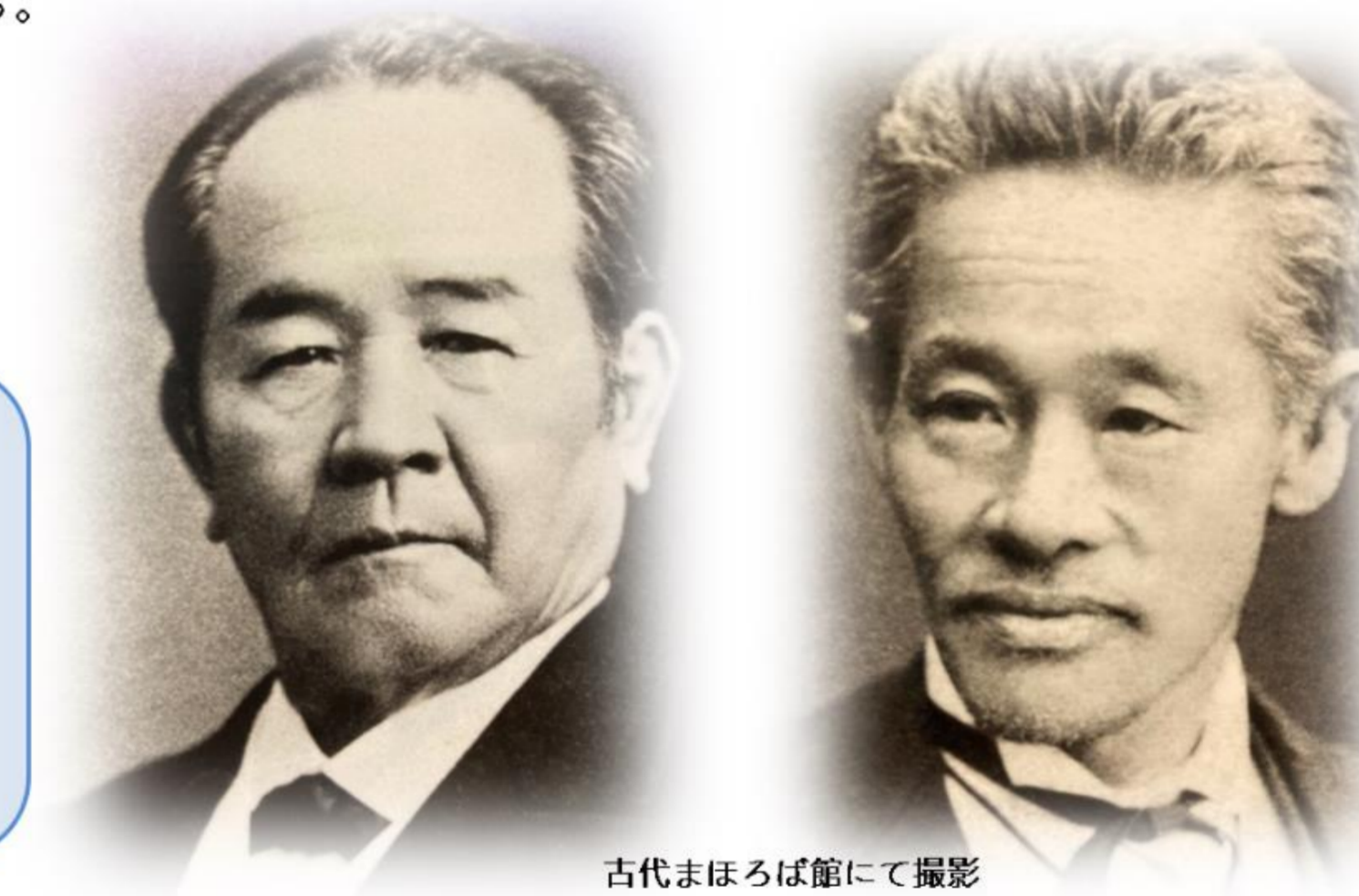


⑧馬越恭平の生家

阪谷朗廬が開いた桜溪塾で学ぶ。渋沢栄一と協力し、大日本麦酒を設立する。ビール界への多大な貢献をし、「東洋のビール王」と呼ばれた。



Check! HPはこちらからぜひ、ご覧ください。 QR code



古代まほろば館にて撮影

【地元の皆さんに取材】

自転車で回ってパンフレット作り

この大河の波に乗り、地域を盛り上げる活動をしたと考えた結果、渋沢栄一ゆかりの地を巡り、地域の文化歴史を学び、伝えていくことを思いついた。そこで私は高校1年生のときにゆかりの場所や親戚筋の人を取材してパンフレット(右図)を作成した。地元の皆さんが快く取材に応じてくださった。情報が書ききれなかったのでQRコードを付けてスマホで詳しい説明にリンクさせた。



広報いばら 令和3年11月号 2~3ページ



地元からも大好評!

このパンフレットは好評で、井原市の広報誌にも掲載された。井原市が渋沢栄一展を「井原市文化財センター」で開催したときには配布していただいた。また市内郵便局や山成酒造さんでも配布していただいた。地元のケーブルテレビや新聞にも取り上げられた。



郵便局

配布している様子

井原市文化財センター

【活動のきっかけ・背景】

地元に戻って若者が戻ってくる魅力をも!

私の生まれ育った岡山県井原市は、若い人が故郷から外へどんどん出ていく悲しい現状がある。このまま何もなかったら、さらに若い人たちが地元を離れてしまう。地域の魅力がもっとあれば仮に進学などで都会に出て行っても、再び井原市に戻って来てくれるのではないかと思ったが、その地元の魅力が乏しい現在のままでは、井原市出身の若者に振り向いてもらえないと考えた。そこで、大河(ドラマ)の流れに乗り、地元のすばらしさを掘り起こしたいと考えた。

【積極的にアピール】

コンテスト応募

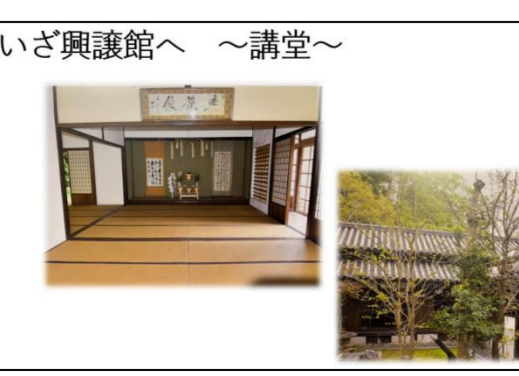
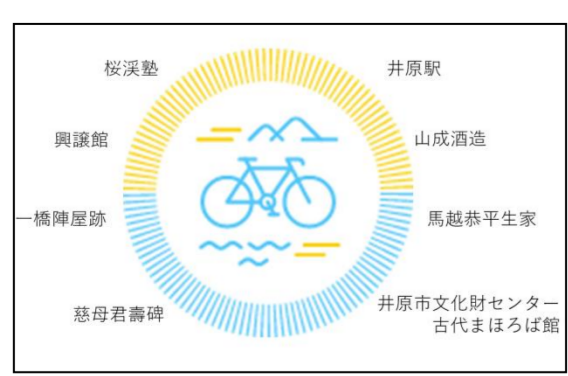
高校生の私ができる広報活動として、コンテストに応募して発表し、井原市の魅力を発信したいと考えた。

①岡山の歴史文化研究フォーラム



岡山北西ロータリークラブ賞を受賞

②千葉商科大学 地元再発見コンテスト



大学HPで動画公開 優秀賞(2位)を受賞

新酒まつりでPR

ゆかりの地である山成酒造で行われた新酒祭りに参加し、来場者の方々にパンフレットを配った。



【今年度の活動】

観光プランの実現

渋沢栄一は漢学者の阪谷朗廬と親交があった。阪谷朗廬は興譲館初代館長として若者の指導には「白鹿洞書院揭示」(朱子学)を示した。私の作った観光プランでは、渋沢栄一や阪谷朗廬のゆかりの地を巡り、渋沢栄一も朗読したであろう「白鹿洞書院揭示」を渋沢栄一の時代からそのままに残る興譲館講堂で講義を受ける、というのが核心部分だ。講義は興譲館高校の元校長先生にお願いする。



特典 渋沢栄一掛軸 阪谷朗廬掛軸 徳川慶喜の書 慶喜から賜った刀 私のツアー参加者には興譲館高校所蔵品を見せてもらえる

講堂の講堂の使用・元校長先生の講義・興譲館高校所蔵品の拝観はすでに了解を得ている

地域誌「高梁川」掲載

文化・歴史に関する研究論文、郷土に寄せる思いや創作などが掲載される「高梁川」という機関誌(昭和29年創刊)に井原市教育委員会から寄稿のお誘いをいただいたので、私の活動内容について文章を提出した。年内に刊行予定。

活動団体プロフィール

私の夢は地元の活性化に貢献することだ。活動をしていく中で地域の方との触れ合いや関りもあり、既に井原市を盛り上げようと活動している方の話を聞くこともでき、活動の幅も広がってきた。人見知りの性格も改善し、ケーブルテレビの取材で話している私を見た近所のおばさんが驚いて「あんた、こんなに話せるようになったんじゃなあ」と家にわざわざ来てくれたほどだ。今は一人での活動だが、今年度は観光プランの実現をする予定なので、仲間を作り、一緒にがんばりたい。

